

# USER'S MANUAL

# KEYLAB SERIES

UNIVERSAL MIDI CONTROLLER

---



## プログラミング:

Robert Bocquier  
Tyler Pei

## インダストリアライゼーション:

Nicolas Dubois

## マニュアル:

**Randy Lee**  
**Sebastien Rochard**  
Tomoya Fukushi  
Jerome Parrod

## デザイン:

Glen Darcey  
Axel Hartmann  
Morgan Perrier

© ARTURIA SA – 1999-2013 – All rights reserved.  
4, Chemin de Malacher  
38240 Meylan  
FRANCE  
<http://www.arturia.com>

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについてArturiaは何ら責任を負いません。許諾契約、秘密保持契約に関する諸条件により、本マニュアルで説明されているハードウェアユニットとソフトウェアプロダクトを供給します。許諾契約は合法的な使用のみと条件を指定します。Arturia S.Aの明確な書面による許可なく本マニュアル一部、全部をコピー配布することはできません。また本マニュアルで引用されている他の製品、ロゴはそれぞれの所有者の商標、または登録商標です。

**2013年4月版**

# Arturia KeyLabをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます ！

このマニュアルは、ArturiaのKeyLab、任意のDAWソフトウェア、またはプラグインで動作するように設計されたフルファンクションのMIDIコントローラーの機能と操作について節米します。

注：KeyLabは、弊社のAnalog Labソフトウェアを含むパッケージの一部ですが、このマニュアルでは、KeyLabコントローラーのハードウェアにのみ焦点を当てています。ソフトウェアの機能について知るには、Analog Labのマニュアルを参照してください。

このパッケージに含まれるもの：

- KeyLabキーボード・コントローラー：1
- USBケーブル：1
- KeyLabのクイックスタートガイド。このドキュメントでは、KeyLabをオンラインで登録し、Analog Labソフトウェアをオーサライズするために必要となるシリアルナンバーと、レジストレーションコードを提供するステッカーがフロントカバーの内側に貼付されています。

**登録情報は慎重に保管してください！** これには、オンラインレジストレーション・プロセスに必要なシリアルナンバーが含まれています。KeyLabをレジストレーションすると以下の利点があります。：

- Analog Labソフトウェアのインストーラー、マニュアル、KeyLabのマニュアル、KeyLab MIDIコントロールセンター・ソフトウェアのダウンロードが可能になります。
- Analog Labを使用する際に必要なコード、電子メールで提供されるアンロックコードが提供されます。そのオーサライズの手順に関しては、Analog Labのマニュアル第3章を参照してください。

## スペシャルメッセージ

### 仕様変更について:

本マニュアルに含まれる情報は、印刷した時点で正しいと思われるものです。しかし、Arturia は仕様更新に伴う内容の変更、修正等を事前の告知なく行う場合があります。

### 重要:

感電、破損、火事あるいは他の危険からの大怪我や死に至る可能性を回避するために下にリストアップされている基礎的な注意事項に常に従ってください。

本機は、ヘッドフォンとスピーカーの両方、またはどちらか一方を使用して、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定出来る場合があります。そのような大音量や不快に感じるほどの音量で長時間本機を操作、演奏しないでください。

難聴、もしくは耳鳴りなどを自覚した場合には、直ちに専門家の診断を受けてください。

### 注意:

知識の不足による、誤った操作から発生する問題に対してのサポートは、保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、販売店とご相談の上、サポートを要求することをお勧めします。

**注意事項としては以下を含みますが、これらに限定されるものではありません。:**

1. 取扱説明書を良く読んで、理解してください。
2. 楽器本体に表示されている指示に従ってください。
3. 楽器や周辺機器を清掃する場合は、まず電源やUSB等全てのケーブルを外してください。また、清掃の際は、乾いた柔らかい布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油その他有機溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾なども使用しないでください。
4. 楽器を浴室やキッチン、プールなど水気の多い湿った場所で使用しないでください。
5. 楽器を落下の危険性がある、不安定な場所に置かないでください。
6. 楽器の凹みを埋めたり、穴や隙間を塞がないで下さい。これらは、加熱から本体を守るための空気の循環用のものです。また、楽器を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に置かないで下さい。
7. 楽器の筐体を開けたり、異物を挿入したりしないで下さい。火災や感電の原因になります。
8. いかなる液体も楽器に吹き付けしないで下さい。
9. 修理の際は正規サービスセンターに持ち込んで下さい。自身で蓋を開けたりカバーを開けると、保証の対象外となります。不正な調整は、故障や事故の原因になります。
10. 雷発生時には、楽器を使用しないで下さい。距離が離れていても感電の恐れがあります。
11. 楽器を直射日光に当てないでください。
12. ガス漏れが発生している場所付近で楽器を使用しないで下さい。
13. Arturiaは本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失にも責任を持ちません。

# もくじ

1	イントロダクション .....	7
2	KEYLABの概要 .....	8
2.1	ファーストステップ:接続を行う .....	8
2.2	フロントパネルについて .....	9
2.2.1	キーボード .....	11
2.2.2	ピッチ&モジュレーション・タッチホイール .....	11
2.2.3	オクターブ・ボタン .....	11
2.2.4	ボリューム・ロータリーエンコーダー .....	12
2.2.5	サウンド/マルチ/エディット・セクション .....	12
2.2.5.1	サウンド/マルチ・ボタン .....	12
2.2.5.2	エディット・ボタン .....	12
2.2.5.3	カテゴリー/パラメーター・エンコーダー .....	13
2.2.5.4	プリセット/バリュー・エンコーダー .....	13
2.2.6	スナップショット・ボタン .....	13
2.2.7	シーケンサー・セクション .....	15
2.2.8	シンセサイズ・セクション .....	16
2.2.8.1	フィルター .....	16
2.2.8.2	LFO .....	16
2.2.8.3	FXミックス .....	16
2.2.8.4	キー・パラメーター .....	17
2.2.8.5	エンベロープ .....	17
2.2.9	パッド (KeyLab 49 と Keylab 61 のみ) .....	17
2.3	リアパネルについて .....	18
2.3.1	MIDI コネクション .....	18
2.3.2	パワーサプライ .....	18
2.4	基本的なMIDIコントロール .....	18
3	KEYLABとANALOG LABの使用方法 .....	19
3.1	オーディオ & MIDIのセットアップ .....	19
3.1.1	オーディオセットアップ .....	19
3.1.2	MIDIセットアップ .....	20
3.2	プリセットの選択 .....	20
3.2.1	Analog Labの“プリセット” .....	20
3.2.2	KeyLabプリセット 1-11 の選択方法 .....	20
3.3	セットアップ .....	21
3.4	ノブとスライダーを使用する .....	21
3.5	パッドを使用する (KEYLAB 49 と KEYLAB 61) .....	22
3.6	スナップショットを使用する .....	22
4	MIDI コントロールセンター .....	23
4.1	システム必要条件: MIDIコントロールセンター .....	23
4.1.1	必要な最小システム構成: .....	23
4.1.2	対応プラットフォーム: .....	23
4.2	KEYLAB MIDIコントロールセンターのインストール .....	23
4.3	MIDIコントロールセンターを起動する .....	24
4.3.1	バーチャルキーボードとそのコントロール .....	24
4.3.2	“Global”と“Selected Control Parameter”セクション .....	24
4.4	MIDI設定の変更 .....	24
4.4.1	グローバル・パラメーター .....	24
4.4.2	選択したコントロールのパラメーター .....	25
4.4.2.1	エンコーダーの設定 .....	26

4.4.2.2	スライダーの設定.....	27
4.4.2.3	パッドの設定 (Keylab 49 とKeylab 61).....	28
4.4.2.4	ボタンの設定.....	29
4.4.2.5	モジュレーション・ホイールの設定.....	30
4.4.2.6	ペダルの設定.....	30
4.4.3	キーボードに設定を送信.....	31
4.4.4	デフォルト値の復元.....	31
4.4.5	コンピュータに設定を保存する.....	31
4.4.6	コンピュータから設定のロード.....	32
<b>5</b>	<b>他のソフトウェアとKEYLABの使用方法.....</b>	<b>33</b>
5.1	MIDIコントロールセンターでMIDIプリセットを作成する.....	33
5.1.1	概要: KeyLabプリセットとは?.....	33
5.1.2	パッドで2つの値のMIDI CC# を切り替えるようアサインする.....	33
5.1.1	エンコーダーに異なる2つのMIDI CC#をアサインする.....	34
5.1.2	プリセットの変更を保存.....	35
5.1.3	プリセットのリコール/ プリセットの切り替え.....	35
5.2	グローバルMIDIチャンネルを変更する.....	36
<b>6</b>	<b>ARTURIA KEYLABに関する法律情報.....</b>	<b>37</b>
6.1	ソフトウェア・ライセンス契約.....	37
6.2	FCC INFORMATION (USA).....	39
6.3	CANADA.....	39
6.4	EUROPE.....	39

## 1 イントロダクション

KeyLabは、ArturiaのUSB MIDIキーボードの最新シリーズです。KeyLab25、KeyLab49、KeyLab61 のすべてはベロシティ&タッチセンシティブ・キーボードを採用し品名の数字は鍵盤数を意味しています。弊社のソフトウェア・シンセサイザーとの完璧なインテグレーションのために設計されたコントロール・サーフェスを採用しています。他のソフトウェアやDAWで作業するにも最適になるよう細部まで拘って設計されています。

素晴らしいMIDIコントローラーであり、クラシックなシンセとキーボード・サウンドの驚異的な武器を含む弊社のAnalog Labソフトウェアが付属しています。優れた機能と優れたサウンドを兼ね備えた強力なハイブリッド・シンセサイザーの2つでこの結果をインテグレートします。

2 クリックابل・エンコーダー、11 エンコーダー、9 スライダー、13 スイッチ、6 トランスポート・スイッチ、モジュレーション、ピッチベンド・ホイールは、任意のUSBオーディオプロダクトの可能性を最大限に活用できるようにコントロールできます。KeyLab49、KeyLab61 には 16 ベロシティ&タッチセンシティブ・パッドを備え、MIDI CC ボタン、プログラムチェンジ・スイッチとしてアサインすることができます。

また、MIDIイン/アウト、エクスプレッション、サスティン、外部ペダルだけでなくプレスコントローラーも接続可能です。

それに加え、同梱のMIDIコントロールセンター・ソフトウェアを使用してコンピュータから簡単にコントローラーやパッドにパラメーターをマッピングしたり、ダイレクトにプリセットをストアすることができます。これらのプリセットは、KeyLabハードウェアに保存され、簡単にリコールすることができます。

## 2KEYLABの概要

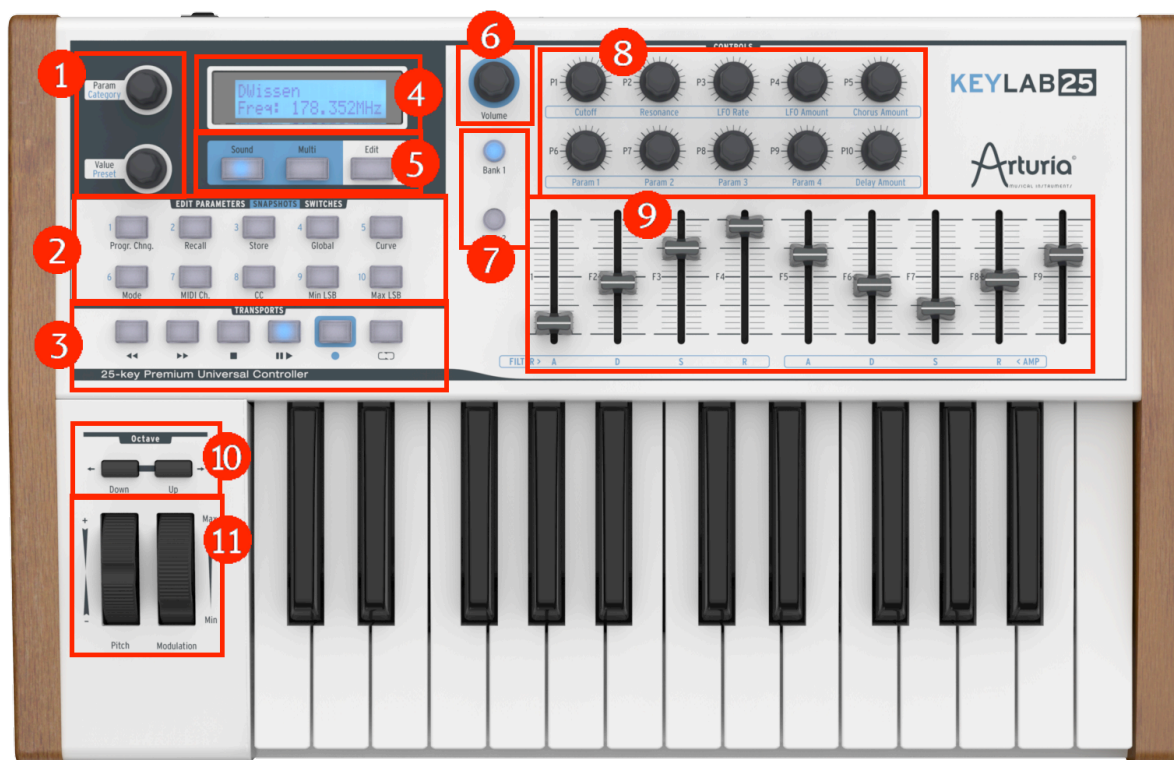
### 2.1 ファーストステップ: 接続を行う

Analog Labで使用するためにKeyLabキーボードの設定を行うのはとても簡単です。

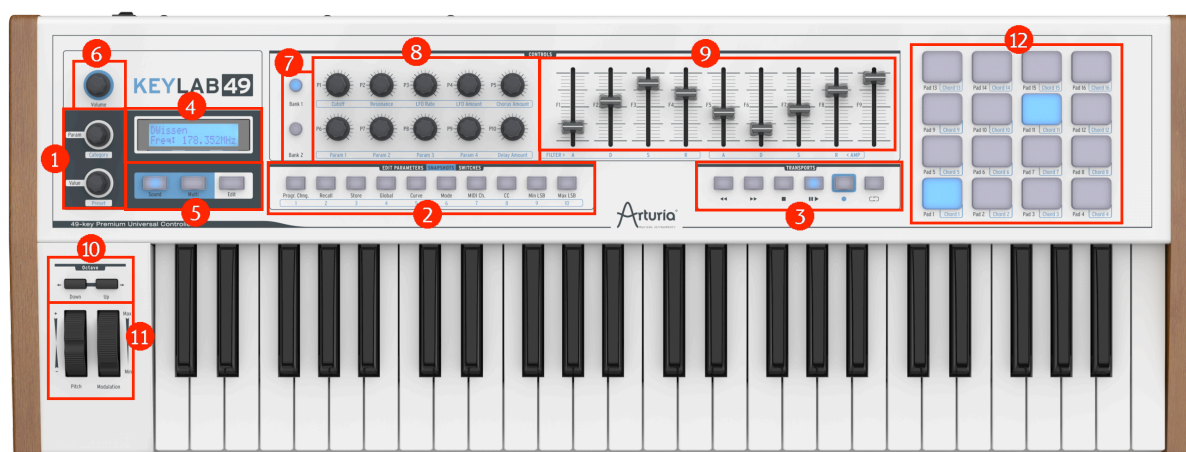
- 1) はじめに、お使いのコンピュータにAnalog Labをインストールし、レジストレーション、オーサライズを行なってください。(Analog Labのユーザーズマニュアル第 2,3 章を参照してください)
- 2) コンピュータにKeyLabキーボードを接続します。KeyLabは、USB接続によって電源を供給されるので、コンピュータとKeyLabをUSBケーブルによって接続してください。
- 3) コンピュータがKeyLabを接続すると自動的にドライバーがインストールされます。
- 4) Analog Labソフトウェアを起動して、先に読み進めてください！



## 2.2 フロントパネルについて



KeyLab25 フロントパネル



KeyLab49 フロントパネル

1: カテゴリー/パラメーターとプリセット/バリュー・ノブ	<p>通常のモードで、カテゴリー/パラメーター・エンコーダーは、セッ トリストのフィルターオプションを選択します。エディット・モードでは、アイテムのパラメーターを選択します。</p> <p>通常のモードで、プリセット/バリュー・エンコーダーは、プリセッ トリスト内のプリセットを選択します。エディット・モードでは、上記項目のパラメーターの値をエディットします。</p>
2: スナップショット・ボタン	<p>お気に入りのプリセットをAnalog Labにリコールします。(スナッ プショット)</p> <p>他のソフトウェアで使用する際は、MIDIコントロールセンターを 使用して機能をアサインします。</p>
3: トランスポート・ボタン	<p>これらのボタンは、任意の外部ハードウェア、またはソフトウェア ・シーケンサーをコントロールすることができます。</p> <p>標準的なMMCメッセージを送信します。: スタート、ストップ、レコ ード、巻戻し、早送り、ループ。 MIDIコントロールセンターを使用 してカスタマイズ可能です。</p>
4: LCD スクリーン	32 桁のLCDスクリーン
5: サウンド/マルチ/エディット・ボタン	サウンド/マルチ・ボタンはAnalog Labの両方のモード間を切替 えます。
6: ボリューム・ノブ	ボリューム・ロータリーエンコーダーは、Analog Labの音量をコン トロールします。
7: バンク・ボタン	バンク・ボタンは、エンコーダーとフェーダーの両方を 2 つのアサイン・グループ間で切り替えることができます。
8: エンコーダー	ロータリー・エンコーダーは、Analog Labのプリセットのシンセサ イズ・パラメーターやその他の任意のデバイスをコントロールす ることができます。
9: フェーダー	フェーダーは、Analog Labでのプリセットシンセサイズ・パラメー ターのコントロール、または任意の他のデバイスをコントロール することができます。
10: オクターブ・アップ/ダウン・ボタン	上下に 3 オクターブのトランスポーズが可能。ボタンの点滅状 態によって視覚的に現在のオクターブ設定を確認することがで きます。
11: ピッチベンド/モジュレーション・ホ イール	2 つのコントローラーは、リアルタイムにピッチシフトとモジュレー ション量をコントロールするために使用できます。
12: パッド(KeyLab 49/61 のみ)	キーボード・コントローラーの右上にある 16 個のパッドは、 Analog Labで和音をトリガーするために使用できます。また、 MIDIコントロールセンターで汎用のペロシティ&プレッシャー・セ ンシティブコントローラーとして設定も可能です。

## 2.2.1 キーボード

KeyLab 25、49、61 は、Analog Labソフトウェア・インターフェイスと完全に統合してコントロールできるよう設計されたコントロール・サーフェスと 25、49、61 鍵のベロシティ&アフタータッチ・センシティブ・キーボードです。

### ピッチ & モジュレーション・タッチホイール


これら 2 つのコントローラーは、リアルタイムにピッチシフトとモジュレーション量のコントロールを行います。

ピッチ・ホイールを上下に動かすと演奏している音のピッチを変更します。変更できる範囲は、プリセットに設定されているオクターブ・レンジに依存します。

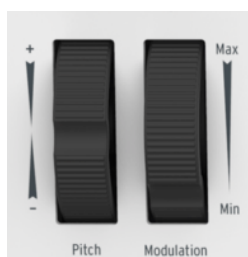
モジュレーション・ホイールを上下に動かすと、演奏している音のモジュレーション量を変更します。変更できる範囲は、プリセットに設定されているモジュレーションのレベルに依存します。

モジュレーション・ホイールは全てのプリセットで使用できるわけではありません！プリセットで選択、使用されている必要があります。

---

 モジュレーション・ストリップは、いくつかのプリセットのパラメーターを調節するために割り当てることができない場合があります。

---



ピッチ & モジュレーション・ホイール

## 2.2.3 オクターブ・ボタン

プラス/マイナス・ボタンを押してオクターブ・セクションを切り換えます。上下 3 オクターブの範囲で切り替え可能です。

7 種類のLEDの点灯状態で現在のオクターブ位置を視覚的に表示します。

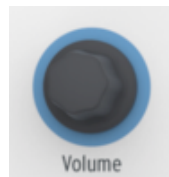
- ・ オクターブ -3: LED— の点滅スピードは 3、LED+ の点滅はなし
- ・ オクターブ -2: LED— の点滅スピードは 2、LED+ の点滅はなし
- ・ オクターブ -1: LED— の点滅スピードは 1、LED+ の点滅はなし
- ・ オクターブ 0: LED— 、LED+ の点滅はなし
- ・ オクターブ +1: LED+ の点滅スピードは 1、LED— の点滅はなし
- ・ オクターブ +2: LED+ の点滅スピードは 2、LED— の点滅はなし
- ・ オクターブ +3: LED+ の点滅スピードは 3、LED— の点滅はなし



オクターブ・ボタン

## 2.2.4 ボリューム・ロータリーエンコーダー

“Volume”ロータリー・エンコーダーを回すと、Analog Lab全体の音量をコントロールできます。



ボリューム・ノブ

## 2.2.5 サウンド/マルチ/エディット・セクション



サウンド/マルチ/エディット・ボタン

### 2.2.5.1 サウンド/マルチ・ボタン

サウンドとマルチ・ボタンは、Analog Labの両方のモードを切り替えるために使用します。

### 2.2.5.2 エディット・ボタン

“Edit”ボタンは、セットアップ・モードでKeylabキーボードの設定を行う事ができます。ボタンが押されている場合、イニシャルモードでは使用できない二次的な機能呼び出すことができます。エディット・モードがアクティブな場合、このボタンが点灯します。

エディット・モードをアクティブにするとインターフェイスは以下のように変更になります。

- ・ カテゴリー・エンコーダーは、現在のアイテムのパラメーターを選択します。
- ・ プリセット・エンコーダーは、現在の項目の値を設定します、:これはエンコーダーの“プッシュ”機能を使用して確認する必要があります。

このモードになると、LCDディスプレイは、現在エディット中の名前と値を示します。

### 2.2.5.3 カテゴリー/パラメーター・エンコーダー

通常モードでのカテゴリー/パラメーター・エンコーダーは、プリセットリストのフィルターオプションを選択します。

セットアップ・モードでのこのエンコーダーは、パラメーターの項目を選択します。

### 2.2.5.4 プリセット/バリュー・エンコーダー

通常モードでは、このボタンはプリセットマネージャーでプリセットを選択するために使用します。これは“ブッシュ”エンコーダーなので、選択を確定するにはエンコーダーを押してください。

エディット・モードでは、アイテムのパラメーターの値を調整し、値を確定するにはエンコーダーを押します。

## 2.2.6 スナップショット・ボタン

通常モードでスナップ・ボタンは、スナップショットをリコール、または保存することができます。スナップショットは、特定の必要なサウンドへ素早いアクセスを可能にする 10 個の任意のプログラムへのダイレクトリンクです。

スナップショットを**保存**するには、1 秒以上任意のスナップショット・ボタンを押したままにしてください。Analog Laboratoryのすべてのエディット可能な機能はスナップショットに保存されます。

スナップショットをリコールするには、これらのボタンのいずれかを押してください。Analog Laboratoryのすべての機能が保存した状態で復元されます。

セットアップ・モードがアクティブになった時、スナップ・ボタンは別の機能を実現します。

**Mode** 特定のアイテムにコントローラー・モードを設定します。使用可能なモードは以下の通りです。

- ・ オフ: コントローラーは無効になり、メッセージはまったく送信されません。
- ・ コントロール: 通常(絶対値)のMIDIコントロール。ノブでは、バーチャルポジションが保持されます。
- ・ 相対コントロール: ノブは、相対値を送信します。
- ・ RPN/NRPN: このモードでは、(N)RPNメッセージを送信します。ターゲット・コントローラーはMax/MSBとMin/LSBパラメーターでプログラムされます。

**Chan** 特定のアイテムにデータを送る場合のチャンネルを設定します。

- ・ 1-16 : 明確なMIDIチャンネル
- ・ Lwr: 現在よりも下のチャンネル
- ・ Upr: 現在よりも上のチャンネル
- ・ Pnl: パネルボタンの状態に応じて上、または下のチャンネル

**Num** 特定のアイテムのMIDIナンバー

- ・ ノート・モードのパッドやボタンに実際のノート・ナンバーを送信
- ・ MMCモードでのトランスポート・ボタンで使用するMMCコマンド・ナンバー
- ・ NRPN/RPNモードでのノブやフェーダーで使用するデータ送信に使用するコントローラー・ナンバー(6, または 38)
- ・ プログラム・モードでボタンはプログラムチェンジ・ナンバーをホールドします。


### Min LSB          コントローラーに応じて様々な機能

- ・ ノブ、パッド、フェーダーがCtrlモードでは、送信した最小値を含んでいます。
- ・ ノブやパッドがNRPN/RPNモードでは、NRPN/RPNコントローラー・ナンバーのLSB（下位番号）が含まれています。
- ・ Ctlモードでは、リリース時にホールドした値を送信します。
- ・ Progモードでは、バンクLSBをホールドします。
- ・ ノート・モードでは、ノートオフ・ベロシティをホールドします。

### Max MSB          コントローラーに応じて様々な機能

- ・ ノブ、パッド、フェーダーがCtrlモードでは、送信した最大値を含んでいます。
- ・ ノブやパッドがNRPN/RPNモードでは、NRPN/RPNコントローラー・ナンバーのMSB（上位番号）が含まれています。
- ・ Ctlモードでは、プレス時にホールドした値を送信します。
- ・ Progモードでは、バンクMSBをホールドします。
- ・ ノート・モードでは、ノートオン・ベロシティをホールドします。

---


 最小値を最大値よりも大きくすることは可能です。その場合にはコントローラーの効果が反転します。

---

### Global          パラメーターを設定するために使用

- ・ FaderMod: フェーダー、ドローバー・フェーダーモード、ノーマルまたはドローバー
- ・ KnobMode: ノブ・モード、絶対または相対パス
- ・ OctTrans: オクターブ・トランズポーズ、-3~+3 オクターブ
- ・ ChroTrns: クロマチック・トランズポーズ、-12 to +12 セミトーン
- ・ LowerCh: ロウワー MIDIチャンネル、1~16
- ・ UpperCh: アッパーMIDIチャンネル、1~16
- ・ SplitMod: スプリット・モード、オン/オフ
- ・ SplitPnt: スプリット・ポイント、C-2~G8
- ・ MMCDivID: MMCデバイスID、0~127
- ・ DeviceID: デバイスID 16~127

---

 スプリット・ポイントをエディットする場合、音楽用キーボードの鍵盤をヒットし、それに応じたスプリット・ポイントを設定する必要があります。(通常の効果を得るためにこのヒットを妨げないようにしてください)

---

### Curve          グローバルなカーブを設定するために使用、次の設定が用意されています。

- ・ Velocity: ベロシティ・カーブ、0~10
- ・ Aftertch: アフタータッチ・カーブ、0~10
- ・ PadVeloc: パッドベロシティ・カーブ、0~10
- ・ KnobAccl: ノブ・アクセラレーション、0~10

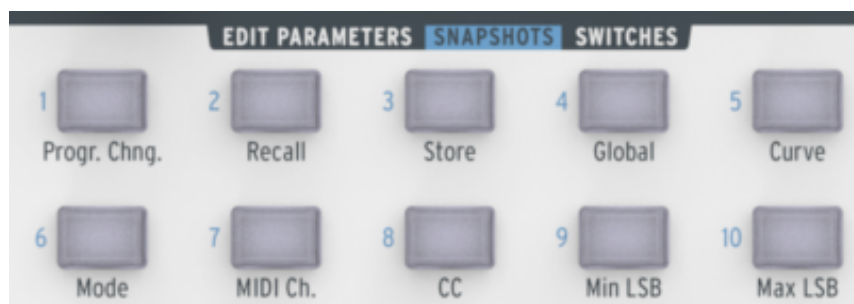
- ・ KeyATmin: 最小キー・アフタータッチ、0～127
- ・ KeyATMax: 最大キー・アフタータッチ、0～127
- ・ PadATmin: 最小パッド・アフタータッチ、0～127
- ・ PadATMax: 最大パッド・アフタータッチ、0～127

**Recall** メモリーからキーボード設定をリコールしたり、デフォルト設定にリセットする。

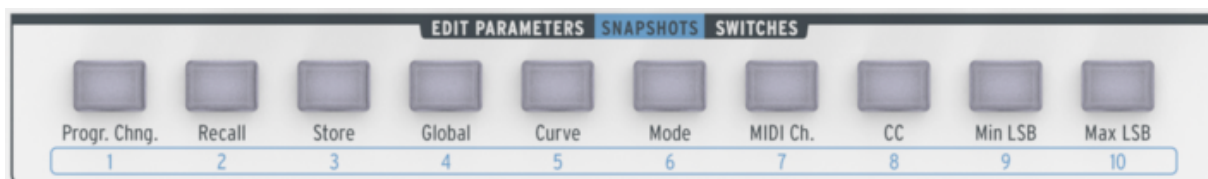
**Store** メモリーにキーボードの設定を保存する。

**MIDI** MIDIメッセージを送信します。このモードでのMIDIメッセージは、エンコーダーを使用して選択し、バリュー・エンコーダーが押された時、すぐに送信します。送信可能なメッセージは以下の通りです。

- ・ Program: プログラムチェンジ 1～128
- ・ Bank MSB: バンクMSB 0～127
- ・ Bank LSB: バンクLSB 0～127
- ・ Reset: リセットGM1、GM2、GS、XG、オールノートオフ



Keylab25 のスナップショット・ボタン



Keylab49 のスナップショット・ボタン

## 2.2.7 シーケンサー・セクション

Analog Laboratoryキーボードは、外部ハードウェア、またはソフトウェア・シーケンサーをコントロールすることができ、標準的なトランスポート機能を持っています。

右の標準的なMMCメッセージを送信します。:スタート、ストップ、レコード、巻戻し、早送り、ループ



トランスポート・セクション

## 2.2.8 シンセサイズ・セクション

このセクションは、Analog Labのすべてのシンセサイズ・パラメーターを表示します。この章の冒頭で説明したように詳細な内容については対応するセクションを参照してください。

### 2.2.8.1 フィルター

選択したプリセットのフィルター設定を変更する 2 つのロータリー・エンコーダー。これらは“カットオフ”と“レゾナンス”で構成されています。



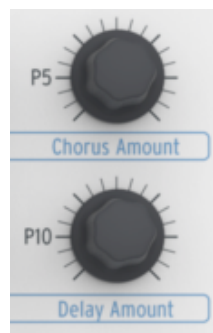
フィルター・エンコーダー

### 2.2.8.2 LFO

選択したプリセットのLFOの設定を変更する 2 つのロータリー・エンコーダー。これらはLFOのスピードをコントロールする“レート”と量をコントロールする“アマウント”の 2 つで構成されています。

### 2.2.8.3 FXミックス

Analog Laboratoryキーボードで使用可能な 2 つのFXミックス・ロータリー・エンコーダー。これらは“コーラス”と“ディレイ”に使用します。両方のエンコーダーは、エフェクトのウェット/ドライ・レベルをコントロールします。



FXミックス・エンコーダー



#### 2.2.8.4 キー・パラメーター

Analog Laboratory キーボードには 4 つの“Param”ロータリー・エンコーダーがあります。これらのパラメーターを微調整することで様々な方法でプリセットのサウンドを変更することができます。どのパラメーターがアサインされるかは、選択したプリセットに依存しており、ソフトウェア・インターフェイスに表示されます。



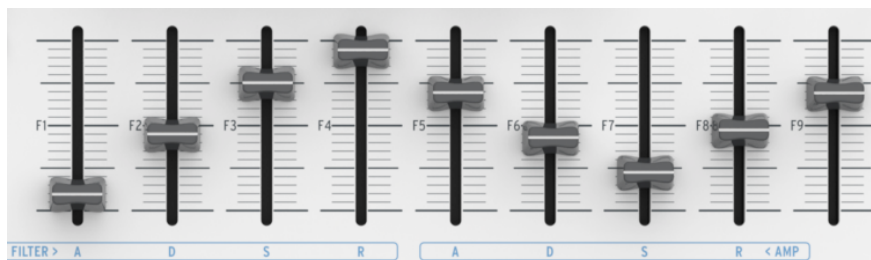
キーパラメーター・エンコーダー

#### 2.2.8.5 エンベロープ

コントローラーの右側にある 9 個のスライダーは、Analog Labのエンベロープ・ジェネレーターに影響を与えます。

2 セットの 4 スライダーで、それぞれA、D、S、Rとマーキングされており、それぞれエンベロープのアタック、ディケイ、サスティン、リリースに対応しています。これらのエンベロープは、プリセットの様々なVFAや、VCFをコントロールし、アサイン先はプリセットに依存しています。

一般的には 9 スライダーは自由にアサインされ、オルガンのソフトウェア・エミュレーションでドローバー・コントロールに使用することも可能です。



エンベロープ・スライダー

#### 2.2.9 パッド (KeyLab 49 とKeylab 61 のみ)

16 個のパッドは、コード・モードをコントロールすることができます。各パッドには、コードをアサインすることができ、簡単にハーモニーをプレーすることができます。



パッド

## 2.3 リアパネルについて

KeyLabキーボードのバックパネルの概要(右から左)

- ・ パワーオン/オフスイッチ
- ・ DC 入力端子: 12V 500mA
- ・ USB 端子
- ・ ブレスコントローラー入力
- ・ 外部ペダル接続端子
- ・ サステインペダル接続端子
- ・ エクスプレッションペダル接続端子
- ・ MIDI アウト端子
- ・ MIDI イン端子



バックパネル

### 2.3.1 MIDI コネクション

KeyLabキーボードは、USB経由でMIDIを送受信します。さらにそれは、MIDIインターフェイスとして機能することも可能です。MIDI出力端子は、キーボードの背面に位置しています。この端子を使用するとMIDIイン端子を持つ音源モジュール、シンセサイザー、シーケンサーやドラムマシンなどのデバイスにMIDIデータを送信することができます。

### 2.3.2 パワーサプライ

KeyLabキーボードは、USBバスパワーですが、必要な場合にはDCアダプターを使用することができます。アダプターを使用する場合、キーボードのバックパネルの端子にDC 500mAアダプターを接続して使用することができます。

## 2.4 基本的なMIDIコントロール

Analog Labのすべてのパラメーターをキーボード・コントローラーでコントロールすることができます。ソフトウェアが起動し、キーボード・コントローラーが接続されれば、ソフトウェアをマウスやコンピュータのキーボードを使用せずにコントロールすることができます。ハードウェア上の物理的なコントローラー(ノブ、フェーダー、ボタン)は、ソフトウェアの一部にマッピングされます。(アサイン先は各プリセットに依存)

## 3KEYLABとANALOG LABの使用方法

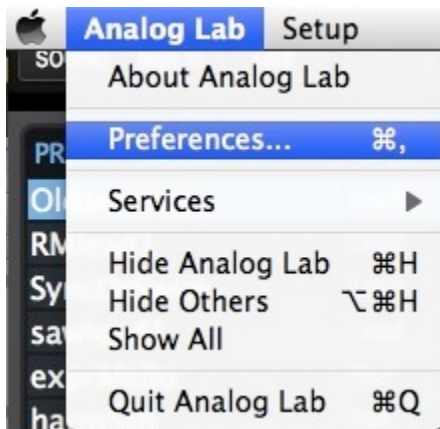
この章では、KeyLabキーボードでどのようにAnalog Labソフトウェアと組み合わせて使用方法について説明します。その結果、KeyLabがコントロールする様々なAnalog Labのパラメーターについて簡単に触れます。Analog Labについての詳細は、Analog Labのユーザーズマニュアルを参照してください。

### 3.1 オーディオ & MIDIのセットアップ

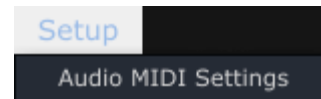
Analog Labを起動した後、最初に行うことは、ソフトウェアがKeyLabからのMIDIを受信し、正常に出力オーディオに設定されているかを確認することです。

#### 3.1.1 オーディオセットアップ

Analog Labのオーディオドライバーの設定を確認するには、Analog Labドロップダウンメニューから、またはコマンド・キー + “、”を押して“環境設定”を開きます。

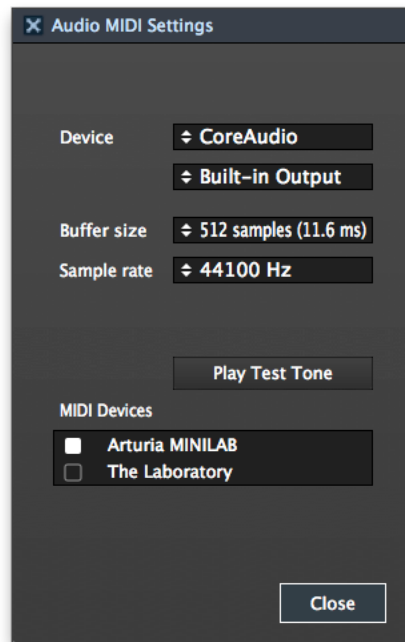


Mac OS Xでのプリファレンス・メニュー



Windowsの場合

これは、オーディオ & MIDIセッティングウィンドウを開き、好ましいオーディオ出力デバイスを選択します。“Play Test Tone”ボタンをクリックし、サイン波の音を確認できた場合は出力の設定が正しく行われています。音が出なかった場合、正しいオーディオドライバーが選択されているか、スピーカー、またはヘッドフォンが接続されているか確認してください。



オーディオ & MIDI セッティング ウィンドウ

### 3.1.2 MIDI セットアップ

USB MIDI コントローラーと Analog Lab を接続することはとても簡単です。前述の 3.1.1 で説明したように、Analog Lab のドロップダウンメニューから、またはコマンド・キー + “,” を押して “オーディオ & MIDI 設定” ウィンドウを開きます。ここでは、使用する MIDI コントローラーを選択します。

オーディオ & MIDI 設定 ウィンドウには “MIDI デバイス” というラベルの付いたセクションがあります。単純に “Arturia KeyLab” の横にあるボックスをクリックしてください。これで Analog Lab のコントローラーとして KeyLab が設定されました。

## 3.2 プリセットの選択

### 3.2.1 Analog Lab の “プリセット”

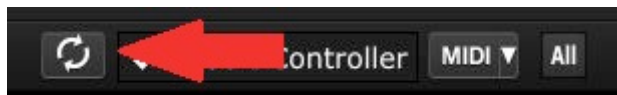
KeyLab は、プリセット・メモリーロケーションを 11 個持っています。デフォルト (プリセット 0) では、Analog Lab で動作するように設定されています。この場合のコントロール・アサインは、各 Arturia のソフトシンセサイザーの中で特定のパラメーターと一致します。そのため、このハードウェア/ソフトウェアの組み合わせで行うセットアップはわずかしかなかったりしません。望むサウンドを素早く探し、音楽制作を始めるために考えられる最も速い方法の 1 つです。

### 3.2.2 KeyLab プリセット 1-11 の選択方法

KeyLab の 8 つの各プリセットは DAW やプラグイン等、他のソフトウェアアプリケーションでも動作するように設定することができます。1-11 のいずれかにプリセットをアサインするには “Edit” ボタンを押してエディット・モードに入り、“Recall” エディット・ボタンを押し、バリュー・ノブで任意のプリセットを選択します。

### 3.3 セットアップ

セクション 3.1 では、Analog Labからオーディオを出力する方法と、KeyLabからのMIDI信号をAnalog Labが受信する方法について説明しました。ここでは、ツールバーの“Sync”ボタンについて説明します。

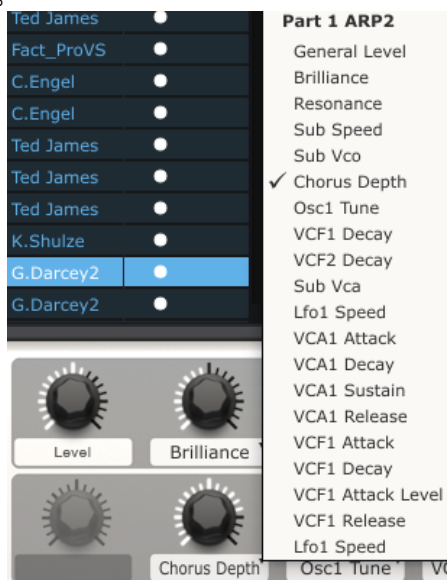


Analog Labを起動した時に、すでにKeyLabをコンピュータに接続している場合には、自動的に接続が確立されます。KeyLabを接続しないまま、先にAnalog Labを起動した場合でも、Analog Labを再起動する必要はありません。その存在を認識させるために“Sync”ボタンをクリックしてください。Analog Labが接続されているキーボードを検出するので、バーチャルキーボードにKeyLabが表示され、接続が確立されます。

### 3.4 ノブとスライダーを使用する

一旦、Analog Labを起動して、正しくオーディオとMIDIのセッティングが行われると必要とすべてのプリセットからのサウンドやマルチを選択して演奏する事ができます。KeyLabのノブやフェーダーは、すぐにそれらのアサインされたパラメーターを想定し、それぞれのプリセットのエディットを行うことができます。

Analog Labの画面の中の各ノブ/スライダーの下にあるプルダウンメニューを使用してノブやスライダーのアサインを変更することが可能です。

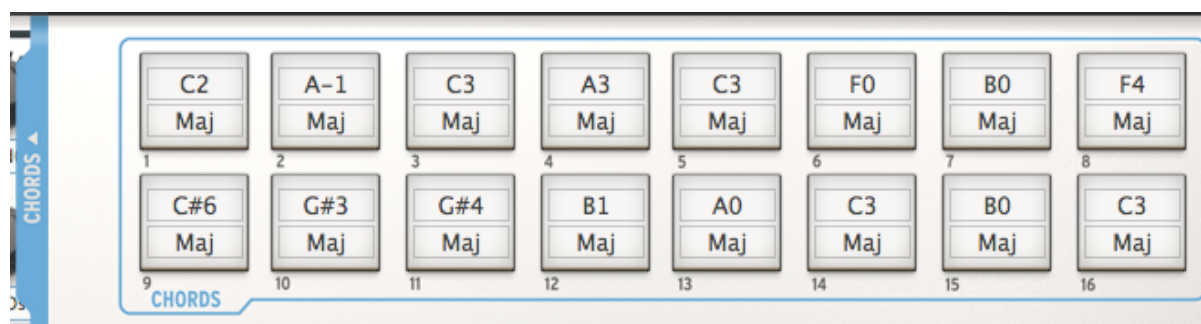


注: 新しいプリセットを選択するたびに、ノブのアサインが変更される場合があります。そのプリセットがベースとなるシンセサイザーによって様々なパラメーターが使用される場合はあるのでこれはごく一部です。

プリセットのエディットに関する詳細な記述は、Analog Labのユーザーズマニュアルを参照してください。

### 3.5 パッドを使用する (KeyLab 49 とKeyLab 61)

Analog Labでアクティブなサウンドを選択するとKeyLabのパッドで演奏することができます。選択したシンセサイザーで、音階やコードを演奏する事ができます。和音は、バーチャルキーボードの右側にある青色のタブ(“CHORD”というラベル)をクリックすることでAnalog Lab内で定義することができます。バーチャルパネルを左側に引き出し、パッドごとに異なるコードを指定できるようになります。



### 3.6 スナップショットを使用する

スナップ・ボタンを押すと、KeyLabは、設定されている方法に応じた新しいサウンドや、新しいマルチのいずれかを選択します。

パッドが選択したプリセットは、バーチャルキーボードの左側にある青色のタブ(“SNAPSHOTS”というラベル)をクリックすることAnalog Lab内で定義することができます。バーチャルパネルを右側に引き出し、スナップ・ボタンへの設定ができるようになります。



単純にサウンドやマルチをクリックして、パッドの 1 つにドラッグ & ドロップします。次に別のサウンドやマルチを次のパッドに同じようにドロップします。最も刺激的なサウンドは指先によってすぐにアクセスすることが可能です。

注: 上図で、プリセット名の前に付いている“S”は、サウンドがそのスナップショットで選択されていることを示します。“M”が付いている場合はマルチが選択されていることを意味します。

## 4 MIDI コントロールセンター

MIDIコントロールセンターは、KeyLabキーボードのMIDIの設定を行うために使用する別のユーティリティです。KeyLabをArturia以外のプラグインとDAWの間に最大限に活用したい場合に便利です。

### 4.1 システム必要条件：MIDIコントロールセンター

#### 4.1.1 必要な最小システム構成：

PC :2 GB RAM以上 ; CPU 2 GHz以上

Mac:2 GB RAM以上 ; CPU 2 GHz以上

#### 4.1.2 対応プラットフォーム：

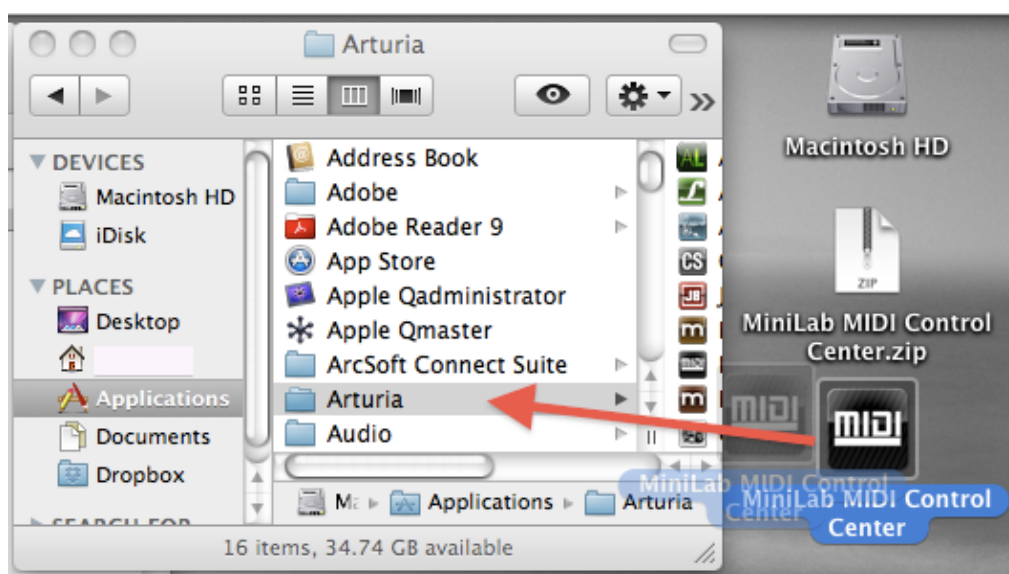
Windows: XP/VISTA/7/8

Mac OS X: 10.6 以降

### 4.2 KeyLab MIDIコントロールセンターのインストール

KeyLab MIDIコントロールセンター・ソフトウェアをダウンロードした後にアーカイブをダブルクリックし、解凍します。次にAnalog Labがインストールされているフォルダと同じ位置にアプリケーションを移動します。:


- OS X:[システムドライブ / アプリケーション / Arturia
- Windows: C:¥Program Files (x86)¥Arturia



## 4.3 MIDIコントロールセンターを起動する

MIDIコントロールセンターを起動する前に、Arturia KeyLabキーボードがコンピュータに接続されていることを確認してください。

---

 MIDIコントロールセンターはKeyLabキーボード専用設計されているので、他のMIDI機器では動作しません。

---

### 4.3.1 バーチャルキーボードとそのコントロール

MIDIコントロールセンター・ユーティリティが自動的にKeyLabを検出して、コンピュータのメモリーに現在の構成をロードし、以下のように表示されます。

### 4.3.2 “Global”と“Selected Control Parameter”セクション

画面の上部エリアは、キーボード・セッティングのエディットを行うところです。ここには、MIDIチャンネルやベロシティ・カーブのような“Global”パラメーターと、各コントロールのMIDIコントローラーの設定を行う“Selected Control Parameter”セクションがあります。

画面の下半分には、KeyLabコントローラーの実際の構成に対応しており、実際にノブ、パッド、コントロール・ホイールやペダル入力を選択してそのMIDIアサインを変更できるように使用します。

注: エディット、オクターブ、ピッチベンド・コントロールは、MIDIコントロールセンター内で独自の機能を実行しません。

キーボード(4.4.3)、デフォルト値(4.4.4)、ロード/セーブ・ボタン(それぞれ 4.4.6 と 4.4.5.)の詳細についてはセクション 4.4.3~4.4.6 を参照してください。

## 4.4 MIDI設定の変更

### 4.4.1 グローバル・パラメーター

グローバルな設定を行う。(例: キーボード全体への設定):

チャンネル	キーボードがイベントを送信するために使用するMIDIチャンネルを設定。バンク1とバンク2の両方に設定可能
ノブ・モード	ノブを相対的、または絶対的モードに設定することが可能
フェーダー・モード	フェーダーをノーマル、またはドローバー(逆転)モードに設定することが可能
スプリット・モード/スプリット・ポイント	キーボード・スプリットを有効にし、それが行われるノートを決定する

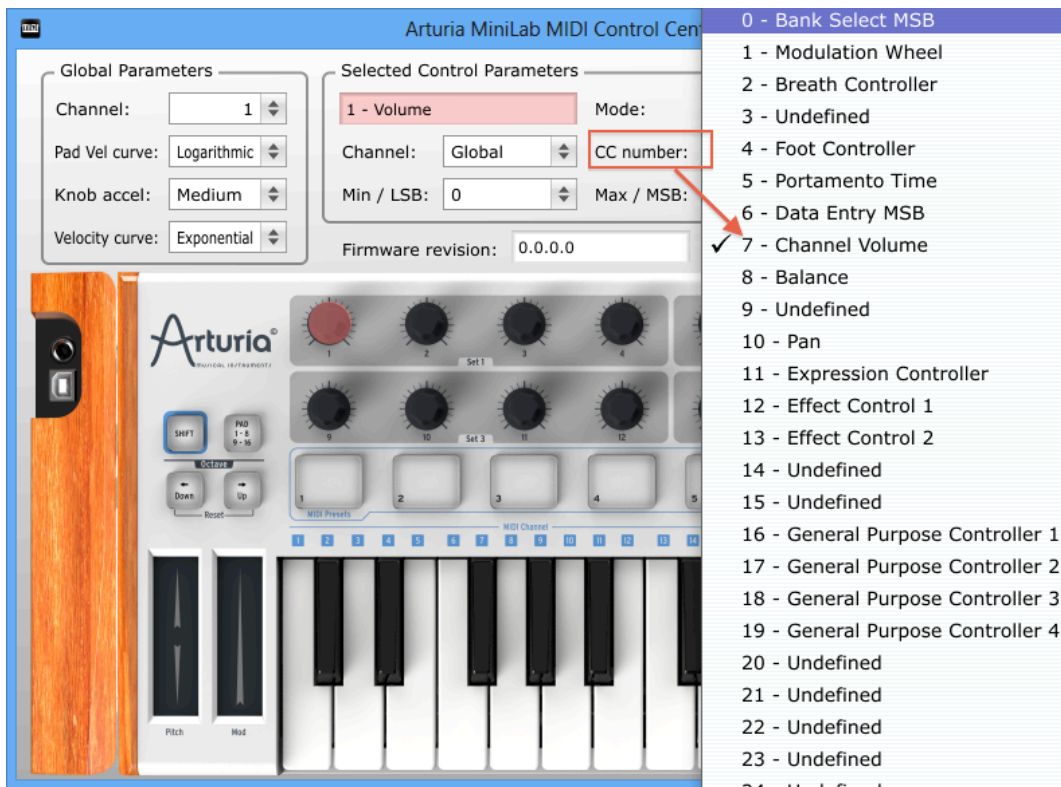


#### 4.4.2 選択したコントロールのパラメーター

キーボードで使用する特定のコントロールが使用するMIDIコントロールチェンジ・ナンバーを設定します。:

- ▶ コントロールをクリックしてください。:それは赤くハイライトされ、現在のセッティングは“Selected Control Parameters”セクションに表示されます。
- ▶ 目的となるデバイスが受信するMIDIデータを送信できるようセッティングを行います。

例えば、バーチャル・ノブをクリックして最初に割り当てられていた“CCナンバー”からドロップダウンメニューで選択した新しいMIDI CCナンバーへと変更することができます。



コントロールの各タイプは、設定可能な独自の範囲があります。:エンコーダー、パッド、コントロール・ストリップ、ペダル

各コントロールと同じ意味を持つ、2つのウィンドウが選択したコントロール“Selected Control Parameters”セクションにはあります。:

<b>コントロール名 (Name)</b>	選択したコントロールの名称が表示されます。(変更不可)
<b>チャンネル (Channel)</b>	MIDIチャンネルを各コントロールに個別、またグローバル・チャンネル、もしくはバンク 1、2 チャンネルに割り当てられたままに設定することができます。

コントロールの各タイプによってそれぞれの解説が必要になるので。残りのウィンドウには非常に柔軟性があります。

#### 4.4.2.1 エンコーダーの設定

エンコーダーが使用できるセッティングは以下の通りです。

<b>Continuous</b>	<p><b>絶対値 (Absolute) :</b> Analog Labのデフォルト設定:ノブは、0-127 までの絶対値を送信します。</p> <p><b>相対値 1 (Relative 1) :</b>ノブを負の方向へ回すとノブは値 61-63 を送信し、正の方向へ回すと値 65-67 を送信します。回すスピードによってパラメーターレスポンスも変わります。</p> <p><b>相対値 2 (Relative 2) :</b>ノブを負の方向へ回すとノブは値 1-3 を送信し、正の方向へ回すと値 125-127 を送信します。回すスピードによってパラメーターレスポンスも変わります。</p> <p><b>相対値 3 (Relative 3) :</b>ノブを負の方向へ回すとノブは値 13-15 を送信し、正の方向へ回すと値 17-19 を送信します。回すスピードによってパラメーターレスポンスも変わります。</p> <hr/> <p><b>⚠ 相対値モード 2 と 3 はAnalog Labでは使用出来ません。それらは、他のMIDI機器やソフトウェアとの互換性のために用意されています。このセッティングのどちらかを使用するかについては、デバイス、またはソフトウェアのマニュアルを参照してください。</b></p>
<b>NRPN/RPN</b>	<p><b>NRPN:</b> NRPN(Non-Registered Parameter Numbers)は、アサインされていないより多くのパラメーターにアクセスするためにMIDI CCナンバーを使用することができます。コントローラー・ナンバーを指定するには、LSB / MSBフィールドを使用します。最小/最大値は無視されます。</p> <p><i>特定の設定のためには、受信するデバイスのマニュアルを参照してください。</i></p> <p><b>RPN:</b> RPN(Registered Parameter Numbers)は、ピッチベンド・レンジやチューニング等の特定のパラメーターをコントロールします。パラメーターナンバーを指定するには、LSB / MSBフィールドを使用します。最小/最大値は無視されます。</p>
<b>CC number</b>	<p>このパラメーターは、モードが“Continuous”に設定されている時に使用可能です。使用可能な値は 128(0~127)です。</p>
<b>Min / LSB と Max / MSB</b>	<p>他のパラメーターの設定に応じて、このフィールドは以下のいずれかの関数を提供します。:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 標準のMIDI連続コントローラー(スイッチ、変数)設定の最小/最大値の範囲を定義します。この場合にはMSB/LSBは使用しません。</li> <li>• NRPN/RPN:コントローラー・ナンバーの最上位(MSB)または最下位(LSB)を指定します。Min/Maxはこの場合使用されません。</li> </ul>

#### 4.4.2.2 スライダーの設定

スライダーが使用できるセッティングは以下の通りです。:

	<p><b>コントロール (Control)</b> 0~127 までの値を送信します。</p>
<p><b>NRPN/RPN</b></p>	<p><b>NRPN:</b> NRPN (Non-Registered Parameter Numbers) は、アサインされていないより多くのパラメーターにアクセスするために MIDI CC ナンバーを使用することができます。コントローラー・ナンバーを指定するには、LSB / MSB フィールドを使用します。最小/最大値は無視されます。</p> <p><i>特定の設定のためには、受信するデバイスのマニュアルを参照してください。</i></p> <p><b>RPN:</b> RPN (Registered Parameter Numbers) は、ピッチベンド・レンジやチューニング等の特定のパラメーターをコントロールします。パラメーター・ナンバーを指定するには、LSB / MSB フィールドを使用します。最小/最大値は無視されます。</p>
<p><b>CC ナンバー (CCnumber)</b></p>	<p>128 段階の値 (0-127) を送信します。</p>
<p><b>Min / LSB and Max / MSB</b></p>	<p>他のパラメーターの設定に応じて、このフィールドは以下のいずれかの関数を提供します。:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準の MIDI 連続コントローラー (スイッチ、変数) 設定の最小/最大値の範囲を定義します。この場合には MSB/LSB は使用しません。</li> <li>NRPN/RPN: コントローラー・ナンバーの最上位 (MSB) または最下位 (LSB) を指定します。Min/Max はこの場合使用されません。</li> </ul>

#### 4.4.2.3 パッドの設定 (Keylab 49 とKeylab 61)

パッドが使用できるセッティングは以下の通りです。

コントロール/コントロール・トグル (Control/Control Toggle)	トグル (Toggle) : パッドの各キーを押すと、値が選択したCCナンバーに送信されます。最初にMax/LSBナンバー、続いてMin/MSBナンバー、その他..
	ゲート (Gate) : パッドが押されたときにMax/MSB値が送信され、リリースすると Min/LSB値が送信されます
MIDIノート (MIDI Note)	トグル (Toggle) : 各パッドのキーを押すとノートオン、ノートオフ・メッセージを送信します。最初は、Max/LSBの値で指定されたベロシティでノートが再生されます。次のキーを押すとMin/LSB値によって指定されたベロシティのノートオフ・メッセージを送信します。
	(ゲート) Gate : パッドを押した時にMax値で指定されたベロシティでノートを再生します。パッドをリリースすると、Min値によって指定されたベロシティのノートオフ・メッセージを送信します。
パッチチェンジ (Patch Chg)	プログラムチェンジ・ナンバーを選択するためのCCナンバーフィールドを使用します。MSBとLSBは、受信するデバイスが予期するバンクセレクトメッセージを受信するために使用します。
Min / LSB と Max / MSB	他のパラメーターの設定に応じて、これらのフィールドはいずれかの関数を使用します。 <ul style="list-style-type: none"><li>標準のMIDI連続コントローラー設定 (スイッチ、または変数) の最小/最大値の範囲を設定します。この場合、MSB/LSBは使用されません。</li><li>ノートオンとノートオフのベロシティ値を定義します。ノートオンはMax値で設定し、ノートオフは、Min値で設定します。この場合、MSB/LSBは使用しません。</li><li>パッチチェンジを送信するバンクセレクトメッセージを定義します。この場合、Min/Maxは使用しません。</li></ul>

#### 4.4.2.4 ボタンの設定

ボタンが使用できるセッティングは以下の通りです。

<p>コントロール/コントロール・トグル (Control/Control Toggle)</p>	<p><b>トグル (Toggle):</b> パッドの各キーを押すと、値が選択したCCナンバーに送信されます。最初にMax/LSBナンバー、続いてMin/MSBナンバー、その他..</p> <p><b>ゲート (Gate):</b> パッドが押されたときにMax/MSB値が送信され、リリースすると Min/LSB値が送信されます。</p>
<p>MIDIノート (MIDI Note)</p>	<p><b>トグル (Toggle):</b> 各パッドのキーを押すとノートオン、ノートオフ・メッセージを送信します。最初は、Max/LSBの値で指定されたベロシティでノートが再生されます。次のキーを押すとMin/LSB値によって指定されたベロシティのノートオフ・メッセージを送信します。</p> <p><b>(ゲート) Gate:</b> パッドを押した時にMax値で指定されたベロシティでノートを再生します。パッドをリリースすると、Min値によって指定されたベロシティのノートオフ・メッセージを送信します。</p>
<p>パッチチェンジ (Patch Chg)</p>	<p>プログラムチェンジ・ナンバーを選択するためのCCナンバーフィールドを使用します。MSBとLSBは、受信するデバイスが予期するバンクセレクトメッセージを受信するために使用します。</p>
<p>Min / LSB と Max / MSB</p>	<p>他のパラメーターの設定に応じて、これらのフィールドはいずれかの関数を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 標準のMIDI連続コントローラー設定 (スイッチ、または変数) の最小/最大値の範囲を設定します。この場合、MSB/LSBは使用されません。</li> <li>• ノートオンとノートオフのベロシティ値を定義します。ノートオンはMax値で設定し、ノートオフは、Min値で設定します。この場合、MSB/LSBは使用しません。</li> <li>• パッチチェンジを送信するバンクセレクトメッセージを定義します。この場合、Min/Maxは使用しません。</li> </ul>
<p>デュレーション・コントロール (Duration control)</p>	<p>ボタンを押すとその間の長さに応じてMin、Max値のどちらか定義された値を送信します。同じボタンで 2 つのパラメーターをコントロールしている場合に便利 (トリガーループとストップなど)</p>
<p>キーボード・プリセット (Keyboard preset)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 最初の11CC値のいずれかを選択し、ボタンに応じてプリセットメモリーに切り替えます。</li> </ul>

#### 4.4.2.5 モジュレーション・ホイールの設定

モジュレーション・ホイールの使用可能な設定は、次の通りです。

<b>コントロール (Control)</b>	必要に応じてCCナンバーと最小/最大範囲を設定すると、モジュレーション・ホイールは、そのMIDIデータを送信します。
<b>NRPN/RPN</b>	<b>NRPN:</b> NRPN(Non-Registered Parameter Numbers)は、アサインされていないより多くのパラメーターにアクセスするためにMIDI CCナンバーを使用することができません。コントローラー・ナンバーを指定するには、LSB / MSBフィールドを使用します。最小/最大値は無視されます。 <i>特定の設定のためには、受信するデバイスのマニュアルを参照してください。</i> <b>RPN:</b> RPN(Registered Parameter Numbers)は、ピッチベンド・レンジやチューニング等の特定のパラメーターをコントロールします。パラメーターナンバーを指定するには、LSB / MSBフィールドを使用します。最小/最大値は無視されます。
<b>Min / LSB and Max / MSB</b>	他のパラメーターの設定に応じて、このフィールドは以下のいずれかの関数を提供します。: <ul style="list-style-type: none"><li>標準のMIDI連続コントローラー(スイッチ、変数)設定の最小/最大値の範囲を定義します。この場合にはMSB/LSBは使用しません。</li><li>NRPN/RPN:コントローラー・ナンバーの最上位(MSB)または最下位(LSB)を指定します。Min/Maxはこの場合使用されません。</li></ul>

#### 4.4.2.6 ペダルの設定

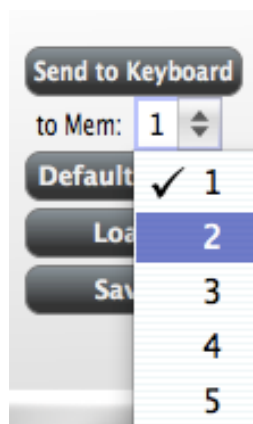
ペダル・コントロールにアクセスするには、ペダルジャックの画像をクリックします。ペダルに使用可能な設定は、以下の通りです。

<b>コントロール (Control)</b>	<b>トグル (Toggle):</b> ペダルを押すと選択したCCナンバーを送信します。最初は、Max/LSBの値、次にもう一度押すと、Min/LSB値を送信します。 <b>ゲート (Gate):</b> ペダルを押すと選択したCCナンバーを送信します。最初は、Max/LSBの値、離すと、Min/LSB値を送信します。
<b>MIDIノート (MIDI Note )</b>	<b>Toggle:</b> ペダルを押すとノートオン、ノートオフ・メッセージを送信します。最初は、Max/LSBの値で指定されたベロシティでノートが再生されます。次のキーを押すとMin/LSB値によって指定されたベロシティのノートオフ・メッセージを送信します。 <b>Gate:</b> ペダルを押した時にMax値で指定されたベロシティでノートを再生します。パッドをリリースすると、Min値によって指定されたベロシティのノートオフ・メッセージを送信します。

#### 4.4.3 キーボードに設定を送信


“Send to Keyboard”ボタンを押すまで、MIDIコントロールセンターの内部で行われた変更はKeyLab内に保存されません。この重要なステップを行わない場合には、KeyLabはコントロールの機能へ行った変更をリコールすることができません。

そのセッティングを必要とするのであれば、“to Mem”メニューをクリックし、8つのメモリーロケーションのいずれかを選択します。

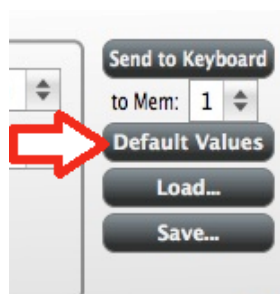


注意: この手順は、KeyLabでターゲットのメモリーロケーションに上書きされるので、その場所の選択が正しいかご確認ください。一度確認し、“Send to Keyboard”を押すと、次回にKeyLabを起動した時に、そのセッティングはその位置に置かれています。

#### 4.4.4 デフォルト値の復元

 “Default Values”ボタンをクリックするとすべてのコントロールの設定を初期化し、工場出荷時のデフォルト値にグローバル設定をリセットします。コントロールの設定を失いたくない場合には、このボタンをクリックする前にお使いのコンピュータ、またはKeyLabのメモリーのいずれかに設定を保存していることを確認してください。

最初からコントローラー・アサインの新しいセットを作成したい場合は、“Default Values”を使用してください。これにより、工場出荷時のデフォルト値にコントローラーのアサインとグローバル設定がリセットされます。




#### 4.4.5 コンピュータに設定を保存する

KeyLabを使用する多くの異なる方法があることにお気づき頂けたかと思います。Analog Labで動作することに加え、弊社のソフトウェア・シンセサイザーのすべてですぐに互換性を持ち、またお使いになる他のどの音楽関連ソフトウェアでも使用できるようKeyLabを準備することができます。

それで、後のリコールのために各設定に名前を付けて保存する事ができます。特定のシナリオを持ったコントロールセット“Save”ボタンをクリックしてコンピュータにそのセットアップを保存してください。



---

 “Save”プロセスは、KeyLab上の1つのメモリーロケーションを保存するだけです。全8個ではありません。

---

#### 4.4.6 コンピュータから設定のロード

コンピュータからKeyLabにロードする必要がある設定はある場合には、“Load”ボタンをクリックするとMIDIコントロールセンターにそれらをロードします。その後、セクション 4.4.3 で説明した“Send to Keyboard”機能を使用してください。



## 5 他ソフトウェアとKEYLABの使用法

### 5.1 MIDIコントロールセンターでMIDIプリセットを作成する

#### 5.1.1 概要: KeyLabプリセットとは?

4章で説明したMIDIコントロールセンターソフトウェアによって任意のデバイスやMIDI情報に対応できるソフトウェアで動作するようにKeyLabを設定する事が可能です。

ここではKeyLabプリセットで何ができるかを数例紹介します。

- MIDIマシンコントロール(MMC)コマンドをパッドにアサインして送信することができます。
- MIDIノートを送信するためにパッドやペダルを使用することができます。
- パッドをプレーすることで、任意のMIDI CC#の値の間を切り替えることができます。
- 任意のMIDI CC#をコントロールし、その動作範囲を定義するためにエンコーダーをアサインすることができます。
- モジュレーション・ストリップからアフタータッチのメッセージを送信し、そのMin/Maxと、“0に戻る”か、“ホールド”を選択することができます。
- KeyLabの8個のプリセットの1つに変更したコントロールのすべての設定を保存することができます。
- 他の7セットのパラメーターアサインを定義し、異なるメモリーロケーションに保存することができます。
- パーソナライズしたプリセット8個の設定を簡単にリコールすることができます。

この章では、それらのシナリオの例を紹介していきます。

#### 5.1.2 パッドで2つの値のMIDI CC#を切り替えるようアサインする

近頃のポピュラー・ミュージックで使用されるエフェクトの1つで、オーディオループを使用し、曲の特定の部分を激しくフィルタリングし、後半にフィルターを開くように変化させる手法があります。DAWソフトウェアで使用するフィルター・プラグインにそのコマンドを送るためにKeyLabのパッドの1つを使用することができます。

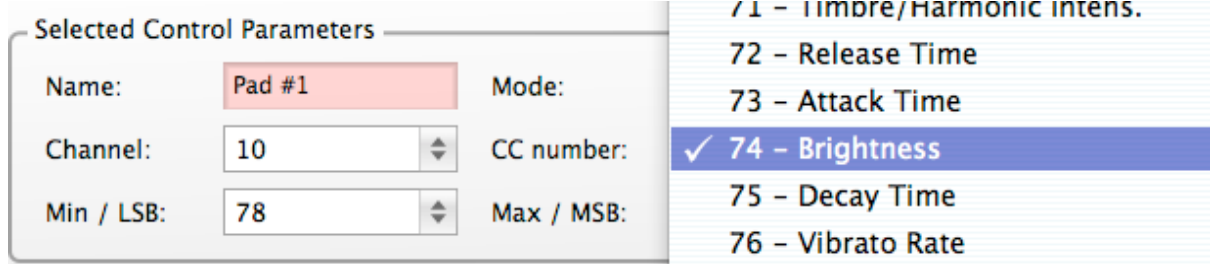
パッド6を使用することにします。パッド6を選択し、モードは“Control Toggle”をプルダウンメニューから選択します。

Selected Control Parameters			
Name:	Pad #1	Mode:	Control Toggle
Channel:	10	CC number:	74 - Brightness
Min / LSB:	78	Max / MSB:	127

この設定では、パッドを押す度に異なる2つのMIDI CCナンバーを送信することができます。

これらに対応するにはフィルターブライツネス(CC#74)とハーモニックコンテンツ(CC#71)等、2, 3のMIDI CCナンバーがあります。この例では、CC#74を使用します。

“CC number”エリアをクリックして、図のように“74-Brightness”を選択してください。



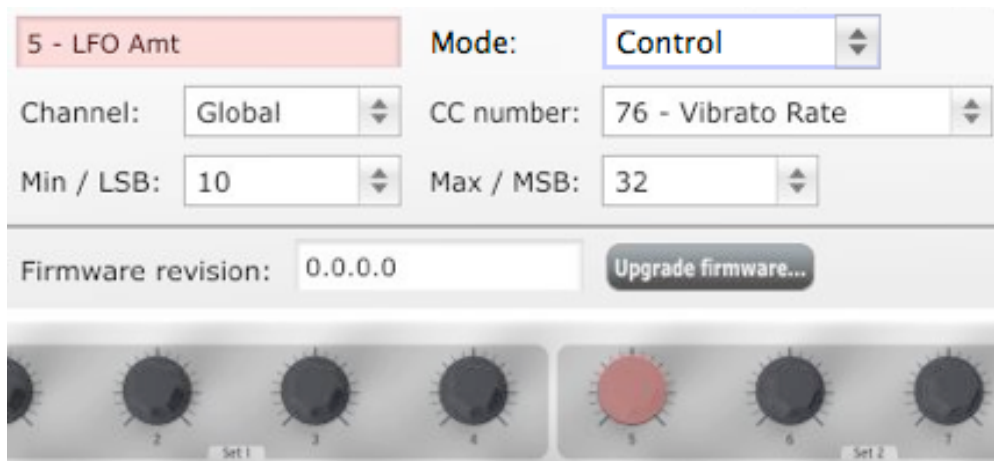
次に(オーディオソースにとって最適な値に)動作させる最低値と最大値を設定します。

パッド 1 の最初のプレスでは、値が 78 でCC#74 コマンドを送信します。それは途中までフィルタリングしますが、まだ多くのオーディオを通らせます。パッド 6 の 2 回目のプレスでは、127 の値を送り、フィルターを完全に閉じます。

注: その設定が受信デバイスにマッチすることを確認するためにMIDIチャンネルアサインをチェックするようにしてください。

### 5.1.1 エンコーダーに異なる 2 つのMIDI CC#をアサインする

先ほどパッドにアサインした技術と同じものをエンコーダーにも使用します。ここでは、簡単で面白い使い方を上げてみましょう。特定の範囲内だけでLFOのレートが動作するように設定します。



何度も見ているますが、上図を確認してください。

- エンコーダー5 を選択するとそれは赤くハイライトされます。
- グローバルMIDIチャンネルがアサインします。
- そのモードでコントロールに設定され、それが完全に時計回りに回した時に、反時計回りの値になるように設定されます。
- CCナンバーフィールドでは“76-Vibrato Rate”をコントロールするためにアサインされているMIDI CCを設定します
- Min / LSBとMax / MSBフィールドでは、エンコーダー5 が特定の範囲内だけで動作するようにリミットを作ります。

要約すると上図のセッティングで、エンコーダー5 は、目的のデバイスのビブラートのレートを 10~32 の間でコントロールします。ビブラートはあまり速くも遅くもならないように設定されています。

当然、使用しているMIDIデバイスに適切なセッティングに調節することができます。

注: 若干のデバイスでは標準的なMIDIコントローラー・アサインを適用できないかもしれません。目的ごとにどんなセッティングを使用すべきかについては、使用するデバイスのマニュアルを参照してください。

### 5.1.2 プリセットの変更を保存

これを必要とする場合、この設定が使用可能です。そのために、これらの設定をkeyLabの 11 個のメモリーロケーションのいずれかにグループとして保存する必要があります。

MIDIコントロールセンター・ソフトウェア右上のセクションに“Send to Keyboard”というボタンがあります。右下には、KeyLabの 1 個のメモリーロケーションのうち、どれに作成したプリセットを保存するか指定するプルダウンメニューがあります。

一番上のボタンをクリックする前に、使用可能なロケーションを選択してください。この例では、#2 を使用します。



上図のようなドロップダウンリストから#2を選択してください。

このプリセットをここに保存して良いと確信できるならば“Send to Keyboard”ボタンを押してください。



たったこれだけのことです。プリセットは今指定したメモリーロケーション#2に問題なく保存され、シフト・ボタンとパッド#2を同時に押すことで簡単にリコールすることができます。詳細についてはセクション 5.1.3 を参照してください。

### 5.1.3 プリセットのリコール/ プリセットの切り替え

いくつかのプリセットを作った後は、状況に応じて必要なプリセットを素早く呼び出す事ができます。エディット・モードに移動し、“Recall”ボタンを押してください。次に必要なプリセットメモリーを選択することができます。

## 5.2 グローバルMIDIチャンネルを変更する

S MIDIチャンネルを切り替えることは、DAWソフトウェアでどのインストゥルメントやトラックをコントロールするか 1 つを選択するために簡単な方法です。エディット・モードに行き、“MIDI Ch.”ボタンを押します。変更したいMIDIチャンネルを“Value”ノブで選択します。

### 6.1 ソフトウェア・ライセンス契約

#### 1 使用許諾

アートリア社はお客様に対し、非独占的な権利として単一のコンピュータで“アナログ・ファクトリー”のプログラム(以下“ソフトウェア”という)を使用する権利を与えます。また、アートリア社は許諾者に非明示的に付与した権利のすべてを留保します。

#### 2 所有権

お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリア社はディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

#### 3 著作権

ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は堅く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

#### 4 使用の制限

お客様は、常に 1 台のコンピュータで使用することを前提として、一時的に別のコンピュータにインストールして使用することができます。お客様はネットワークシステムなどを介した複数のコンピュータに、ソフトウェアをコピーすることはできません。お客様は、ソフトウェアおよびそれに付随する物を複製して再配布、販売等をおこなうことはできません。お客様はソフトウェアもしくはそれに付随する記載物等をもとに、改ざん、修正、リバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル、翻訳などをおこなうことはできません。

#### 5 譲渡の制限

お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリア社への書面による許諾無しにおこなうことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うこととなります。

### **限定保証と免責**

限定保証アートリア社は通常の使用下において、購入日より 30 日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より 30 日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

### **賠償**

アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により(a)購入代金の返金(b)ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間か 30 日間のどちらか長いほうになります。

### **その他の保証の免責**

上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

### **付随する損害補償の制限**

アートリア社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(仕事の中断、損失、その他の商業的損害なども含む)について、アートリア社が当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。

## 6.2 FCC INFORMATION (USA)

### **Important notice: DO NOT MODIFY THE UNIT!**

This product, when installed as indicate in the instructions contained in this manual, meets FCC requirement. Modifications not expressly approved by Arturia may avoid your authority, granted by the FCC, to use the product.

**IMPORTANT:** When connecting this product to accessories and/or another product, use only high quality shielded cables. Cable (s) supplied with this product **MUST** be used. Follow all installation instructions. Failure to follow instructions could void your FCC authorization to use this product in the USA.

**NOTE:** This product has been tested and found to comply with the limit for a Class B Digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide a reasonable protection against harmful interference in a residential environment. This equipment generate, use and radiate radio frequency energy and, if not installed and used according to the instructions found in the users manual, may cause interferences harmful to the operation to other electronic devices. Compliance with FCC regulations does not guarantee that interferences will not occur in all the installations. If this product is found to be the source of interferences, witch can be determined by turning the unit “OFF” and “ON”, please try to eliminate the problem by using one of the following measures:

- Relocate either this product or the device that is affected by the interference.
- Use power outlets that are on different branch (circuit breaker or fuse) circuits or install AC line filter(s).
- In the case of radio or TV interferences, relocate/ reorient the antenna. If the antenna lead-in is 300 ohm ribbon lead, change the lead-in to coaxial cable.
- If these corrective measures do not bring any satisfied results, please the local retailer authorized to distribute this type of product. If you cannot locate the appropriate retailer, please contact Arturia.

The above statements apply **ONLY** to those products distributed in the USA.

## 6.3 CANADA

**NOTICE:** This class B digital apparatus meets all the requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulation.

**AVIS:** Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

## 6.4 EUROPE



This product complies with the requirements of European Directive 89/336/EEC

This product may not work correctly by the influence of electro-static discharge; if it happens, simply restart the product.